

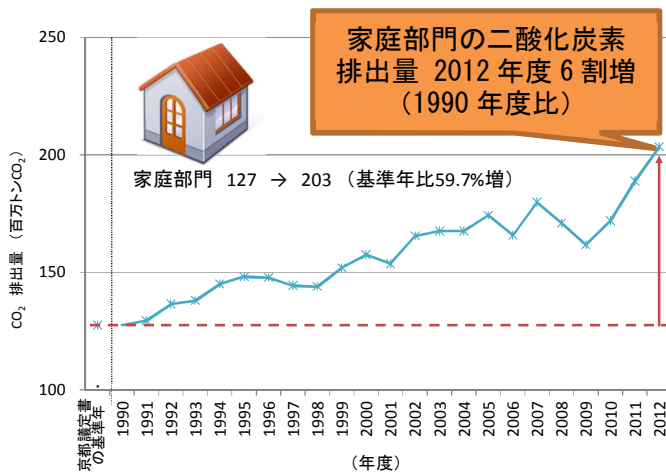
「家庭からの二酸化炭素排出量の推計に係る実態調査」のご紹介

環境省 地球環境局 総務課 低炭素社会推進室

1 調査の背景・目的

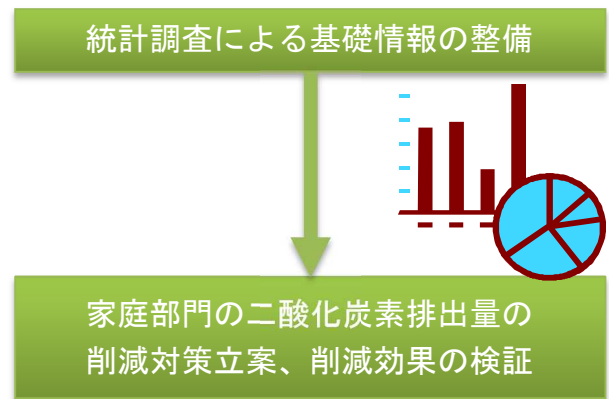
- 我が国の家庭部門における二酸化炭素排出量は、**2012年度には1990年度比で約6割も増加**しており、排出構造を詳細に把握した上で、効果的な削減対策を行うことが喫緊の課題となっています。（**図1参照**）
- しかし、我が国では家庭部門における二酸化炭素排出量の削減対策の立案や、削減効果の検証のために必要となる詳細な基礎情報が不足しており、これらの情報を整備するため、**政府統計調査として創設**することとなりました。（**図2参照**）

図1 家庭部門の二酸化炭素排出量の推移



(出典) 国立環境研究所 温室効果ガスインベントリオフィス

図2 調査の目的



2 試験調査の実施（平成24年10月～平成25年9月）

環境省では、統計調査の創設にあたり、設計の検討等に必要なデータの収集を目的として、関東甲信と北海道の世帯を対象とした試験調査を実施しました。（**表1参照**）

表1 試験調査の概要

地域	関東甲信、北海道
調査期間	平成24年10月～平成25年9月
調査項目	エネルギー（電気・ガス・灯油・ガソリン・軽油）の使用量等（12ヶ月分） 属性事項（世帯属性、住宅属性、機器使用状況、車両使用状況、省エネルギー行動実施状況等）

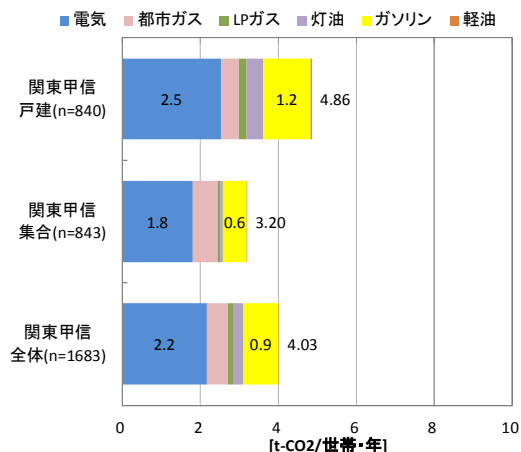
3 試験調査により得られた主な結果

(1) エネルギー種別世帯あたり年間二酸化炭素排出量

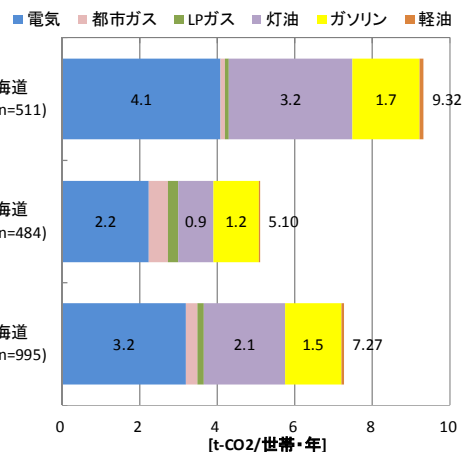
- 世帯あたりの年間二酸化炭素排出量は、関東甲信で4.0トン、北海道では7.3トンとなっており、ともに「電気」の使用に伴う排出が最も多くなっています。(図3参照)

図3 エネルギー種別世帯あたり年間二酸化炭素排出量

《関東甲信》



《北海道》

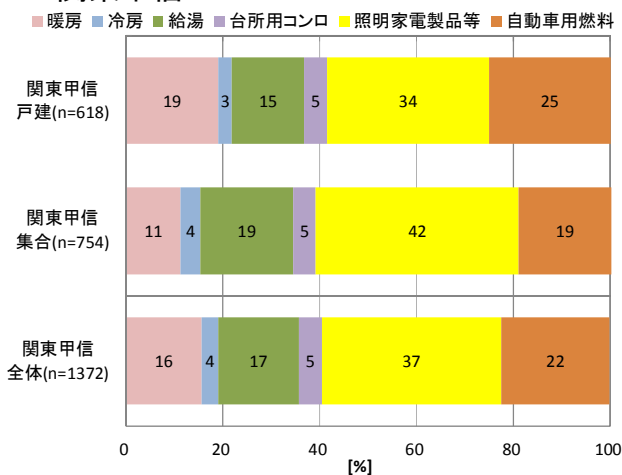


(2) 用途別世帯あたり年間二酸化炭素排出量の構成比

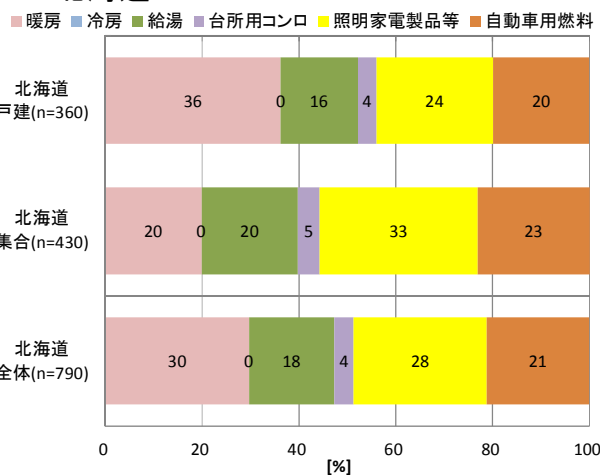
- 用途別の二酸化炭素排出量の構成比は、関東甲信の全体では「照明家電製品等」からの排出(全体の37%)が最も多く、次いで、「自動車用燃料」(22%)、「給湯」(17%)、「暖房」(16%)の順となっています。(図4 関東甲信 参照)
- 北海道の全体では、「暖房」からの排出(全体の30%)が最も多く、次いで、「照明家電製品等」(28%)、「自動車用燃料」(21%)、「給湯」(18%)の順となっています。(図4 北海道 参照)

図4 用途別世帯あたり年間二酸化炭素排出量の構成比

《関東甲信》



《北海道》



4 今後の調査の予定

環境省では試験調査の結果を踏まえ、平成26年10月より全国の世帯を対象とした全国試験調査を実施する予定です。こうした調査を通じ、家庭からの二酸化炭素の排出実態をより精緻に把握し、活用してまいります。